

鶴岡工業高等専門学校 教育研究技術支援センター 奨励研究費講習会開催報告

技術第3班 伊藤 眞子

1. 概要

科学研究費助成事業（以下、科研費）とは、日本の研究機関に所属する研究者の研究を格段に発展させることを目的とする文武科学省およびその外郭団体である独立行政法人日本学術振興会の事業である。その中の一つである奨励研究は、教育・研究機関の教職員等であって、他の科学研究費助成事業の応募資格を持たないものが一人で行う教育的・社会的意義を有する研究を助成し、奨励することを目的としている。当教育研究技術支援センターにおいても、教育的・社会的に貢献することを目的として平成25年から積極的に科研費：奨励研究に申請するよう取り組んでいる。奨励研究の採択率は全体で18%程度となっており、当支援センターにおいても採択率は10～18%程度である。採択率向上を目指し令和4年8月10日（水）に講師として木更津高専の嶋野慶次技術長をお招きし、鶴岡高専 教育研究技術支援センター主催の奨励研究費講演会を開催したので報告する。

2. 日程など

日 時：令和4年8月10日（水）11：00～11：50

会 場：鶴岡高専 視聴覚室

聴講者：鶴岡高専 教育研究技術支援センター
技術職員

3. 内容

木更津高専の嶋野慶次技術長をお招きし「木更津高専／教育研究支援センターの取り組みと奨励研究の採択状況とその紹介」というタイトルでご講演いただいた。初めに木更津高専の教育研究支援センターの技術職員組織の歩みや取り組みについてご紹介いただいた。木更津高専の技術職員は令和4年度に

においては常勤が17名、非常勤が3名、計22名と他高専より大きな組織となっている。平成10年10月より国立大学・国立短期大学及び国立高等専門学校の技術職員制度が導入され、求められる「主体性」「自発性」「組織の力」を向上・維持するための取り組みをご教授いただいた。奨励研究採択については、嶋野技術長は過去4回奨励研究の採択があり、過去9回以上採択している技術職員が2名（清水氏、青柳氏）いるとのこと。2名は授業支援の都合で現地での参加は叶わなかったが、清水牧夫技術専門員はTeamsを利用したオンライン形式での参加、また、青柳宏昭技術専門職員にはナレーション入りの動画資料をご提供していただき、奨励研究採択に向けた取り組みや研究内容についてご講演を行っていただいた。オンラインを活用したハイブリッド形式での発表を聴講することができ大いに参考になった。

今後、ご講演いただいた科研費採択のご講演内容を参考に申請資料の作成を進めたいと考えている。

木更津高専 嶋野技術長をはじめ、清水様、青柳様、教育研究支援センター皆様に改めて心より感謝申し上げます。



嶋野技術長のご講演の様子